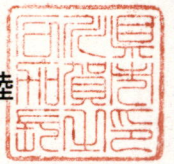


収加企第 3.27-6 号
令和 6 年 4 月 10 日

加賀市議会議長 今津 和喜夫 様

加賀市長 宮 元 陸



文書質問に対する回答書

加賀市議会基本条例第 9 条第 4 項に基づく令和 6 年 3 月 27 日付 林 俊昭議員からの文書質問に対し、下記のとおり回答いたします。

記

○質問項目：1 動橋駅活用事業について

○回答：

動橋駅活用事業についてお答えいたします。

令和三年度に実施しました調査事業「市内駅等活性化調査検討業務」は、加賀市内に三つある鉄道駅の内、北陸新幹線の停車駅となる加賀温泉駅を除く、大聖寺駅と動橋駅の二つの駅舎および山中温泉にある道の駅山中温泉ゆけむり健康村の三か所を調査対象とし、事業の持続可能性や地域内循環を生み出す地域の活性化策についての可能性を事前に調査したものであります。

動橋駅の調査結果につきましては、『動橋駅は市内の片山津温泉・山代温泉への加賀温泉郷に向かう地域交通のハブとしての歴史があったものの、現在では大聖寺駅の半分程度の乗降客数として観光客だけでなく地域住民にとっても交通手段としての機能は失われており、更に平成 21 年に無人化されて 10 年以上を経ていることから、駅機能としても地域住民の要望に応える為の検討が困難な状況となっているのが現状である。前述の通り、例えば駅中カフェやコンビニエンスストア等の商業施設を設置した場合、地域住民や乗降客の大半となる学生を主とした対象顧客にした場合、採算性を勘案すると運営費用を自治体あるいは賛助企業からの補填を必要とする可能性が高く、継続性に疑義を生じる。この為、駅舎を活用して「住民の利便性を高める」のではなく、「域外からの来訪客数の増加」および加賀市が取り組むスマートシティ・スーパーシティ構想や加賀温泉駅周辺再開発とも繋がる様な取り組みを考え、またこうした取り組みが結果として地域住民の要望に対しての一助要因となる様に繋げることを考える。』との報告があり、動橋駅を起点とする地域のランドスケープの一例として、デジタルアートミュージアムが報告されました。

また、議員ご指摘の地元協議につきましては、当該調査後「動橋地区活性化を考える会」に対し、結果を速やかに報告するとともに、意見交換を開始いたしました。この意見交換は、

調査結果についての賛否を確認するものではなく、あくまでも今後の検討の一例としてお示ししており、それ以降、当該団体や地域住民の方々等と、持続可能性や地域内循環等を課題とした意見交換を継続的に行っているところであります。

事務担当
政策企画部企画課
内線 3257